



## 【メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！】

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

## 【山口県立山口図書館から】

令和6年12月2日（月）から館内改修工事のため閉館していましたが、館内工事終了に伴い、令和7年4月1日（火）より通常どおり開館します。なお、開館後も令和7年7月上旬までは、館外を中心に、空調設備、防水及び外壁改修工事を行う予定ですので、引き続き、騒音などで御迷惑をおかけします。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

学校等への団体貸出についても、従来どおりとなります。ご利用お待ちしております。



## 【山口県子ども読書支援センター行事】

### ★「幼児のためのおはなし会」（原則：毎月第一火曜日）

○日時：4月15日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：幼児 ○定員：10組程度

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2113 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

### ★「春のスペシャルおはなし会」

○日時：令和7年5月6日（火・祝）10：30～11：15 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：幼児・小学生の子ども及びその保護者（小学校3年生までの幼児・児童には保護者の付添要）

○定員：40人（要申込み・先着順。保護者の人数を含む。） ◎詳細・申込みはこちら→

### ◎問い合わせ・連絡先：山口県子ども読書支援センター

（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）



## 【新刊紹介】 価格は消費税抜き

### <絵本—乳幼児から>

『かえるがぴよこっ』 すとうあさえ/ぶん さとうあや/え ほるぷ出版 2025.1 ¥1080

はる。あたたかいかぜにさそわれて、つちのなかからかえるがぴよこっとかおをだした。りすやかめ、ちょうちょうもいっしょになって、みんなでともだちをおこしにいよ。あなのまえで「おきてー」というと、でてきたのは…。おはなしを通じて季節ごとの景色に親しむ絵本。二十四節気をひとつずつ取り上げる「はじめてのこよみえほん」シリーズのうち「啓蟄」にちなんだ1冊。

### <絵本—3, 4歳から>

『パクッとパセリ』 三井小夜子/作・絵 ひかりのくに 2025.1 ¥1500

ぜんじろうさんのレストランではオムライスがにんきだが、つけあわせのパセリだけはいつものこされる。うらにわでそだてたパセリを、おきやくさんにもたべてもらいたいぜんじろうさん。あるひ、どこかのくにのしんしがきて、パセリたくさんのサラダをちゅうもんすると…。食わず嫌いを楽しく克服する絵本。月刊絵本「おはなしひかりのくに」1994年1月号を再編集し出版。

### <絵本—5, 6歳から>

『きみならだいじょうぶ!』 コリ・ドーフェルド/作 石津ちひろ/訳 光村教育図書 2024.12 ¥1500

つくったかみひこうきをとばそうとするライリー。そこにワシがあらわれて「もっとおおきくなくっちゃ、そらまでとばないぞ」とめた。いうとおりにつくりなおしたライリーだが、とばそうとするたびにとりたちがやってきては、くちばしをいれてくる。ライリーはようやく、じぶんがどうすればいいかきついて…。失敗を恐れず挑戦する気持ちと、見守ることの大切さを描く絵本。

### <絵本—小学校低学年から>

『ともちゃんとうし』 市川朔久子/作 おくやまゆか/絵 岩崎書店 2025.1 ¥1400

あるあさ、どうしてもがっこうにいきたくないともちゃんのまえに、おおきなうしがあらわれた。うしはともちゃんをせなかにのせて、ゆっくりとまちをあるいていく。ついたさきはきれいなのはら。ともちゃんが、うしといっしょにのんびりしていたところ、はなをはちにさされてしまったうしが、いきなりすごいはやさでかきだして…。気持ちを整理する時間に温かく寄り添う絵本。

### <絵本—小学校中学年から>

『ライオン』 ウィリアム・ペーン・デュボア/文・絵 まさきりこ/訳 瑞雲舎 2025.2 ¥1800

この世界ができる前、どうぶつたちをつくりだしたのは、「どうぶつ工房」の絵画室ではたらく天使の絵かきたちだった。ある日、

絵画室長フォアマンは、ライオンという新しいどうぶつを思いつく。美しい名前にぴったりの姿にするため、仲間たちにアドバイスをもらい…。シュールな絵が笑いを誘う絵本。1955年にアメリカで出版されたコルデコット・オナー賞受賞作の初邦訳。

### <読み物—小学校低学年から>

『おさるのしま』 いたうひろし/作・絵 講談社 2025.1 ¥1400

南の島で穏やかに毎日を過ごすおさるたち。ある日、森の奥から恐ろしい声が響いてきた。その正体を確かめるべく、勇気を出して森の中を進む。魔物と思っていたものは実は…。「ちゃんとわかると、こわかったものもなーんだってことに」というのはおじいちゃん言葉。多様性をテーマに、30年以上続く「おさる」シリーズがストーリーをより深く楽しめる新作として発刊。

### <読み物—小学校中学年から>

『や・い・ろ・の』 いまたあきこ/文 南波タケ/絵 文研出版 2025.1 ¥1400

夏休みに父の都合で田舎から引っ越してきた4年生の大樹。クラスメイトから言葉がなままっていることをからかわれ、うまく声が出せなくなる。ある雨の日、学校帰りに「や・い・ろ・の」と書かれた看板のある古い建物を見つける。そこに出入りする同じクラスの優菜から「のろってやろう」と言われ…。仕返したことに後ろめたさを感じ悩みながら乗り越えていく少年の友情物語。

### <読み物—小学校高学年から>

『探検家』 キャサリン・ランデル/著 越智典子/訳 ゴブリン書房 2024.12 ¥1700

アマゾン川上空の飛行機は、突如パイロットの不調により墜落。乗っていた少年フレッド、少女コン、姉弟ライラとマックスは、ジャングルに取り残される。4人はジャングルを脱出しようと策を練るが、自分たちよりも前に何者かがいた痕跡を見つける。自然の脅威や猛獣に立ち向かう彼らは…。壮大な冒険物語。コスタ賞児童図書部門受賞。サンデータイムズ年間最優秀児童書。

### <読み物—中学生から>

『ミルキーウェイ 竹雀農業高校牛部』 堀米薫/作 新日本出版社 2024.12 ¥1500

幼い頃から動物が好きな広瀬夢生(おう)は、シングルマザーの母親に経済的な負担をかけたくないという思いから竹雀農業高校へ進学する。入学式の日、悠々と歩く牛に魅入られた夢生は「牛部」に入部。実習用の乳牛を毎日世話することに加え、子牛の誕生、乳牛コンテストの見学などを通して夢生は徐々に「牛」にのめりこみ…。東北の小さな町で、命と向き合う高校生の物語。

### <ノンフィクション—小学校低学年から>

『バブルが村にやってきた!』 森永卓郎/作 林ユミ/絵 講談社 2025.1 ¥1600

家具職人を引退したペンギンは親切にしてくれる周囲の知り合いに「1日まるごとなんでもお手伝いします」という1日クーポン券を配布。うでのいい職人だったペンギンの仕事ぶりに、クーポン券には値段がつけられ値上がりし…。実際の物の価値以上に値段がふくれあがる「バブル」や、見込みで物を買う「投資」などについて、ストーリーをふまえて分かりやすく解説する絵本。

### <ノンフィクション—小学校中学年から>

『夢を持つ、夢中になる、あとはかなえるだけ 車いすテニス小田凱人』 秋山英宏/文 Gakken 2025.2 ¥1500

パリの凱旋門から字をもらい「凱人(ときと)」と名付けられた少年は明るく元気にサッカーに打ち込んでいた。ところが小2のある時足に違和感を感じる。大手術後、リハビリの中で車いすテニスと出会い、世界一を目指す。パリ・パラリンピックで車いすテニス金メダルを勝ち取った小田凱人選手の半生をつづる。夢を持ち、挑戦し続けることの大切さや素晴らしさを伝える物語。

### <ノンフィクション—小学校高学年から>

『日本語発見ツアー1』 神永暁/監修 鈴木出版 2025.1 ¥3500

「ひとりで爆笑する」「映画館で号泣する」は正しい?正しくない?ことばは、時代や使う人によって意味がどんどん変化している。言葉のもつ本来の意味や由来、漢字での表し方、現在の使われ方や聞き手の感じ方、勘違いしがちな慣用語などについて分かりやすく紹介する。語彙が増え、言葉についての知識が深まる1冊。巻末に索引あり。全3巻。監修は辞書編集一筋の編集者。

### <ノンフィクション—中学生から>

『なんで人は青を作ったの? 青色の歴史を探る旅』 谷口陽子・高橋香里/著 新泉社 2025.1 ¥2200

人類は空や海の色に憧れたが、自然界では青色の顔料は希少で、古代エジプトではラピスラズリ1gが金1gと同じ価値を持つほどだった。中1の蒼太朗と律を主人公に、化学者の実験を手伝う二人を通して、人類が青色を手にするまでの長い歴史を旅する物語。産業などの歴史的背景についても盛り込まれている。筆者は文化財の保存修復に携わる研究者。「13歳からの考古学」シリーズ。

### <研究書>

『わだかまってばかり日記 本と共に』 岩瀬成子/著 理論社 2025.1 ¥2000

山口県出身の児童文学作家・岩瀬成子のエッセイ集。児童文学総合誌『飛ぶ教室』2011年春号から2016年冬号の連載「本を読む」を大幅に改稿し、12章編成で単行本化。家族や周囲の人との関係性など、自身の子どもの時代の数々の出来事と、それぞれのエピソードから派生する本を紹介。当時の気持の様子や社会情勢も生々しく描かれている。巻末に登場した本のリストあり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。取書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→  
<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

